



# 布良の地層とジオパークのエコミュージアム

平成 26 年 7 月 1 日（火）13:00～15:00 布良崎神社

講師：高橋直樹氏（千葉県立中央博物館学芸員）

主催：NPO 法人安房文化遺産フォーラム / 青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会

国土地理院によると、沖合の日本海溝に2つのプレートが沈み込む房総半島南部の館山は、日本で最も隆起しているといえます。標高 23.5m にある館山市布良の海食洞（県指定天然記念物）は、約 2500 万年～500 万年前の泥岩でできており、この地層に含まれるカルシウム分はサンゴ礁によって作られた石灰成分が元で、太平洋プレートの移動が関与していると考えられています。

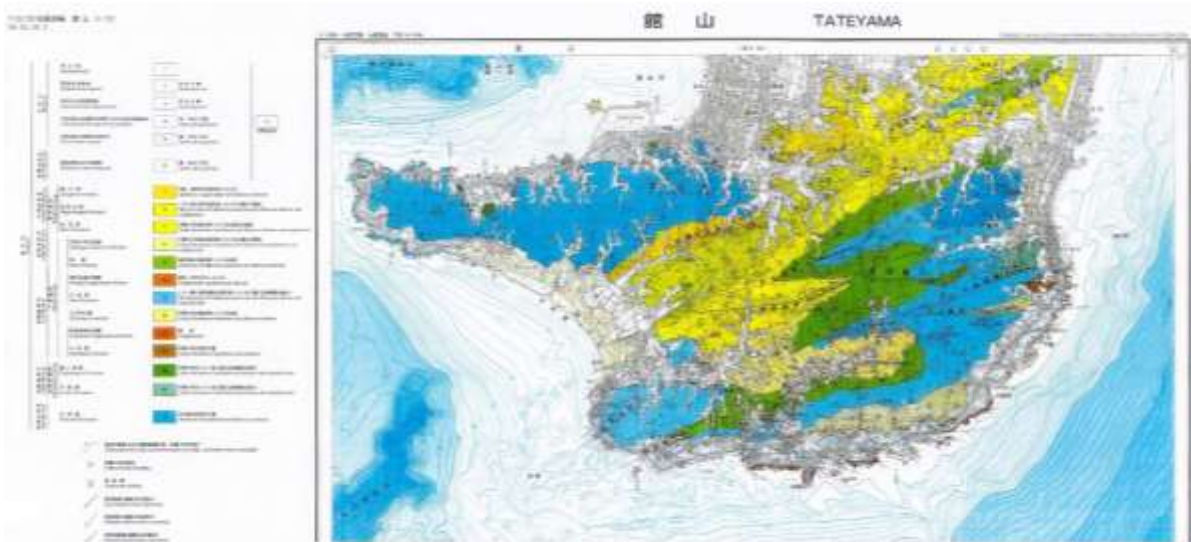
1904 年に布良を訪れた青木繁が茶色い岩を描いた2作品の写生地はどこでしょうか。布良地区は「布良層」と呼ばれる 250 万年前の地層ですが、海岸線に1ヶ所だけ 300 万年前の「白浜層」という岩場があります。鉄を多く含む火山灰のため茶色であり、青木の作品と合致します。110 年前は海岸線から離れた海上に浮かび上がっていた「白浜層」が関東大震災の隆起を経て、今は陸地に繋がったものと考えられます。



『海景(布良の海)』石橋財団ブリヂストン美術館蔵



『海』石橋財団石橋美術館蔵



「地質図幅 館山」産業技術総合研究所 地質調査総合センター

☆ ジオパーク とは… 美しい自然景観や学術的価値を持つ地層を用いて、その土地や地球の成り立ちを知り、それらと私たちとの関わりを楽しく正しく学び、感じることができる自然公園で、世界遺産の地質版ともいわれます。ユネスコの支援により 2004 年に設立された世界ジオパークネットワークにより、世界各国で推進されています。日本では、2009 年に洞爺湖有珠山(北海道)、糸魚川(新潟県)、島原半島(長崎県)、2010 年に山陰海岸(京都府・兵庫県・鳥取県)、2011年に室戸(高知県)、2013 年に隠岐(島根県)が認定されています。認定には、地質遺産の保護とともに、それらを地域の教育や科学振興、観光事業に活用し、地域社会の活性化に務めていることが必要とされ、4 年ごとに適正や活動度が再審査されます。